

医薬品検索イーファーマトップ > 1190 その他の中枢神経系用薬の一覧 > チアプリド錠25mg「テバ」の医薬品基本情報

# 商品名 チアプリド錠25mg「テバ」 医薬品基本情報

 薬効
 1190 その他の中枢神経系用薬
 一般名
 チアプリド塩酸塩25mg錠

 英名
 Tiapride TEVA
 剤型
 錠

 薬価
 8.20
 規格
 25mg 1錠

 メーカー
 日医工岐阜工場
 毒劇区分

### チアプリド錠25mg「テバ」の効能・効果

脳梗塞後遺症の(攻撃的行為、精神興奮、徘徊、せん妄)の改善、特発性ジスキネジア、パーキンソニズムのジスキネジア

### チアプリド錠25mg「テバ」の使用制限等

1. プロラクチノーマ、プロラクチン分泌性下垂体腫瘍

記載場所 使用上の注意

注意レベル 禁止

2. 重篤な循環器障害、QT延長、低カリウム血症、著明な徐脈、褐色細胞腫又はその恐れ・疑い、パラガングリオーマ又はその恐れ・疑い、栄養不良状態を伴う身体的疲弊、脱水を伴う身体的疲弊、腎機能障害

記載場所 使用上の注意

注意レベル 注意

## チアプリド錠25mg「テバ」の副作用等

2. 昏睡、痙攣

1. 死亡

記載場所 重大な副作用

**頻度** 頻度不明

記載場所 重大な副作用

**頻度** 5%未満

3. 悪性症候群、Syndrome malin、無動緘黙、強度筋強剛、嚥下困難、 頻脈、血圧変動、発汗、発熱、白血球増加、血清CK上昇、ミオグロビン尿、腎機 能低下、高熱が持続、意識障害、呼吸困難、循環虚脱、脱水症状、急性腎障害、Q T延長、心室頻拍、Torsade de Pointes

記載場所 重大な副作用 頻度 0.1%未満 4. 不整脈、頻脈、胸内苦悶、血圧上昇、血圧低下、錐体外路症状、パーキンソン症候群、振戦、筋強剛、運動減少、流涎、姿勢障害、歩行障害、ジスキネジア、言語障害、咬痙、アカシジア、乳汁分泌、女性化乳房、月経異常、眠気、不眠、不安、焦燥、抑うつ、ぼんやり、性欲亢進、めまい、ふらつき、口渇、頭痛、頭重、脱力感、倦怠感、しびれ、排尿障害、尿失禁、耳鳴、悪心、嘔吐、腹痛、胃部不快感、食欲不振、便秘、口内炎、下痢、AST上昇、ALT上昇、Al-P上昇、過敏症、発疹、そう痒感、発熱、眼調節障害、ほてり、貧血

記載場所 その他の副作用 頻度 5%未満

5. ジストニア、嚥下障害、食欲亢進、腹部膨満感、黄疸

記載場所 その他の副作用

頻度 0.1%未満

6. 嘔吐症状を不顕性化、血圧低下、QT延長、急激な昇圧発作、悪性症候群、Syn drome malin、錐体外路症状、パーキンソン症候群、昏睡、子宮萎縮、 精巣萎縮、交尾までの期間の延長、乳腺腫瘍、下垂体腫瘍、着床後胚損失率増加

記載場所 使用上の注意

頻度 頻度不明

### チアプリド錠25mg「テバ」の相互作用

1. 薬剤名等: QT延長を起こすことが知られている薬剤

発現事象 QT延長・心室性不整脈等の重篤な副作用 投与条件

 理由・原因
 本剤及びこれらの薬剤はいずれもQT間隔を延長させるおそれがあるため、併用により作用が増強
 指示
 注意

2. 薬剤名等: ベンザミド系薬剤

**発現事象** 錐体外路症状、内分泌機能異常 **投与条件** -

理由・原因 本剤及びこれらの薬剤は抗ドパミン作用を有するため、併用により 抗ドパミン作用が強くあらわれる **指示** 注意

3. 薬剤名等: フェノチアジン系薬剤

**発現事象** 錐体外路症状、内分泌機能異常 **投与条件** -

 理由・原因
 本剤及びこれらの薬剤は抗ドパミン作用を有するため、併用により 抗ドパミン作用が強くあらわれる
 指示
 注意

4. 薬剤名等: ブチロフェノン系薬剤

**発現事象** 錐体外路症状、内分泌機能異常 **投与条件** -

理由・原因 本剤及びこれらの薬剤は抗ドパミン作用を有するため、併用により 抗ドパミン作用が強くあらわれる 指示 注意

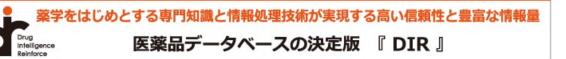
5. 薬剤名等:ドパミン作動薬

発現事象 相互に作用を減弱 投与条件 -

理由・原因 本剤は抗ドパミン作用を有するため、作用が拮抗 指示 注意

6. 薬剤名等: 中枢神経抑制剤

	発現事象	相互に中枢神経抑制作用を増強	投与条件	-
	理由・原因	本剤及びこれらの薬剤は中枢神経抑制作用を有する	指示	注意
7.	薬剤名等 : `	アルコール		
	発現事象	相互に中枢神経抑制作用を増強	投与条件	-
	理由・原因	ともに中枢神経抑制作用を有する	指示	注意
8.	薬剤名等 : 1	<b>敦</b> 酒		
	発現事象	相互に中枢神経抑制作用を増強	投与条件	-
	理由·原因	ともに中枢神経抑制作用を有する	指示	注意
9.	薬剤名等 : :	ボツリヌス毒素製剤		
	発現事象	過剰な筋弛緩、閉瞼不全・頸部筋脱力・呼吸困難・嚥下障害等を発 現するリスクが高まる	投与条件	-
	理由·原因	本剤及びこれらの薬剤はともに筋弛緩作用を有するため、作用が増 強	指示	注意



Copyright© 2005-2025 e-pharma All rights reserved.